

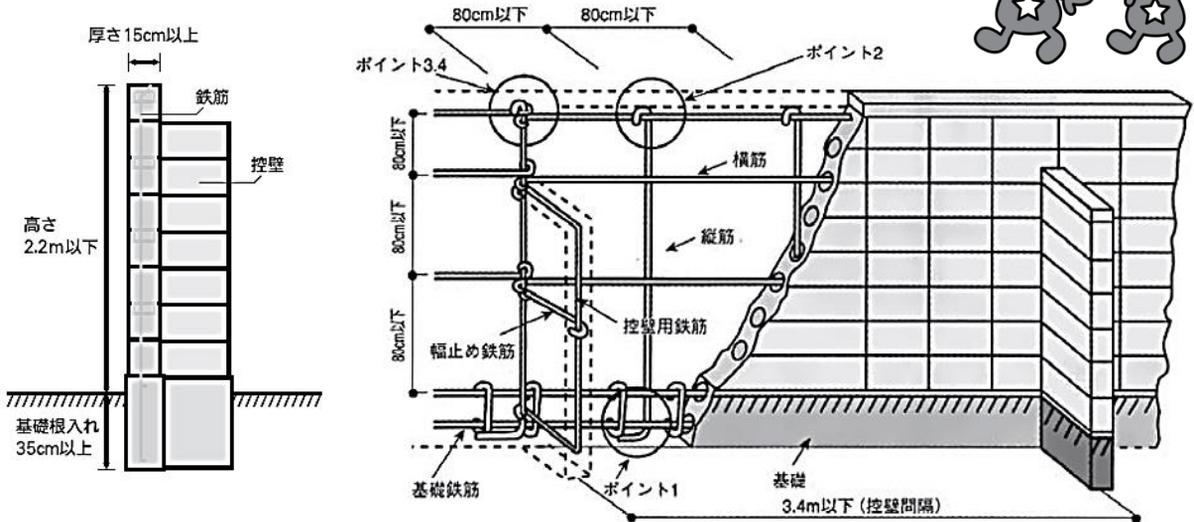
安全なコンクリートブロック塀を造りましょう！

過去の震災では、ブロック塀・石塀が壊れ、大きな事故を招きました。平成23年3月に発生した東日本大震災においても、ブロック塀の倒壊が多数確認されていますが、これらのほとんどは、粗悪な塀の工事に原因がありました。

地震発生時の避難路や物資の緊急輸送道路を確保し、安全な街並みとするためにも今後は道路に面するブロック塀等を生垣や軽量フェンスなどへ転換していくことが重要です。

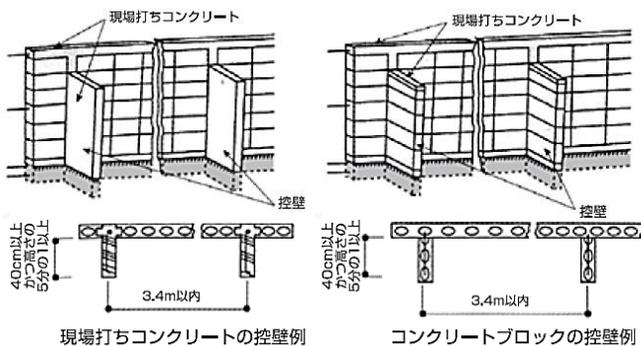
やむを得ず隣地との境界などにブロック塀等を造る場合は、正しい工事の方法により、安全なブロック塀を造りましょう。

【コンクリートブロック塀の構造】



- ①鉄筋は直径9mm以上のものを80cm以下の間隔で入れます。この鉄筋は基礎のコンクリートを打ち込む前に建て並べておき、基礎のコンクリートに十分定着させなければなりません。
- ②壁頂では、横筋にかぎがけして固定させます。
- ③壁頂の横筋は直径13mm以上とします。(塀の高さが1.2m以下の場合は9mmでもよい。)
- ④横筋は両端にかぎをつけ控壁位置の縦筋にかぎがけとします。

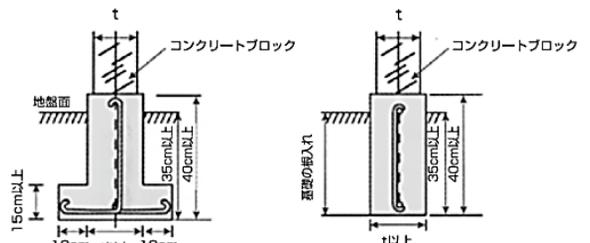
【控壁(壁のささえ)のとり方】



控壁は壁の長さ3.4m以内ごとに設け、鉄筋をいれて壁体とつなげます。控壁や壁頂はコンクリートブロックを積むよりも、現場打ちコンクリートにした方が堅固になります。

【基礎の構造】

基礎の寸法、根入れ深さ及びフーチング(基礎の底盤)の寸法は、図に示す数値以上にするのが望まれます。



軟弱地盤の場合

比較的堅固な地盤の場合